

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 9時30分）

---

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問の前に申し上げておきます。質疑、答弁は的確にわかり易く要領よく行ってください。通告以外の質疑はできません。また、関連質疑は議長の許可を受け質疑を続けてください。質疑は一括質疑と一問一答方式どちらかを述べてから質疑に入ってください。それから固有名詞等は発言に十分に注意してください。

なお、本定例会において町長に反問権を付与します。

最後に、傍聴者の皆さんに申し上げます。議場内ではお静かにお願いいたします。

---

◎一般質問

○議長（稲葉昭宏君） 日程第5、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

---

◇ 藤 井 要 君

○議長（稲葉昭宏君） 通告順位1番、藤井要君。

（1番 藤井 要君 登壇）

○1番（藤井 要君） それでは通告に従いまして、壇上より一般質問を行います。

平成28年も残り少なくなりました。この1年を振り返ると、日本各地で集中豪雨による災害、地震による災害が多く発生した1年でした。北は北海道から南は九州まで、水害、土砂、地震災害等多くの方々的心を痛めた年でもありました。

また、舛添東京都知事の公用車不正使用疑惑から始まった辞職、富山県議の政務調査費不正使用や金額の改ざん問題、国会でも白紙領収書の受け取りなど議員の資質を問われる問題も出てきました。

私たちの松崎町では政務調査費などはなく、このような問題は起こり得ないと考えますが、議員の立場を利用しようとする悪い考えの人との癒着なども起こり得ることであり、町民の方の信頼を裏切らない誠実な行動に努めることを再確認したところであります。

議会最終日には松崎町議会議員政治倫理条例の制定について議案の上程がされていますので、議員各自の考えを述べるよい機会であると思っています。

それでは最初の質問に入ります。齋藤町政の最終年度にあたって平成 29 年度に向けた町長の考えている重点実施政策は何なのか。

那賀川河口堰水門建設、松崎海岸防潮堤建設、焼却場問題、人口減少対策など課題山積の中で、どのような方針を打ち出すのか。在任期間 7 年間の中で感じた松崎の課題またこれからの松崎が未来に向けて永続していくための提言について質問します。

次に、環境整備についてであります。町長いわく、壮大な計画があるという南郷地区鮎川 5 ヘクタールの基盤整備とその利用についてです。鮎川の基盤整備は伊豆縦貫道のトンネル掘削残土を利用し、農地の基盤整備を行うとともに認められた範囲内 1.5 ヘクタールの農用地以外の利用を行うことは当局の説明により承知しているわけですが、どのような計画のもと災害用ヘリポート計画が出てきたのか。

当初の構想より大きく計画変更されたと考えるが、その経緯また今度の計画変更の考えもあるのか、お尋ねいたします。

次に、災害対策についてであります。異常気象という言葉も異常が消えてしまうように頻繁に災害が発生しています。局地的豪雨や竜巻の発生など自然環境の変化に大きく起因するものや対策の遅れから発生する災害などいろいろあるわけですが、当町でも 9 月の長雨による那賀川、岩科川沿いの堤防の一部崩落なども起こっています。

そこで伺いますが、土砂の堆積による川底の上昇、雑木や葦による流れの変化が大きな要因とも考えられ、堆積物の除去が急務と考えます。

防災対策として、町では管理する県とどのような協議を行っているのか。また、対策を立てているのか質問します。

次に、旧依田邸の購入について質問します。旧依田邸については、9 月定例会で町の観光と地域経済の発展に向けた連携をどのように考えているのかと質問しました。当局からは、町の貴重な観光資源として道の駅「花の三聖苑」周辺を活性化していきたい。また、最後に伊豆学研究会から購入依頼がきているので、購入を考えているとの答弁があったと記憶しています。

その後当局の経過説明では、源泉の購入交渉を進めているとのことですが、購入後町ではどのような計画をもって依田邸を活用していくのか、お伺いいたします。

これで壇上からの質問を終わります。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長（齋藤文彦君） 藤井要議員の一般質問にお答えします。

1. 平成 29 年度に向けた、重点実施政策について。①「松崎町、齋藤町政 2 期目の最後の年

度を迎えるにあたり、どのような政策を実施し、2期目の締めくくりとするのか」についてです。

私は2期目をスタートするにあたり、「平成の花とロマンのふる里づくり」を基本理念として、総合計画にある「一人ひとりが主役となり、活力と安らぎと感動のある町」を目指すことを掲げ、多くの施策を展開してきました。

特に、「安心・安全なまちづくり」を目指した防災対策と、「自らの地域に誇りを持って自立し、小さくても輝くオンリーワンを目指した地域づくり」を喫緊の課題として重点的に取り組んできたところです。

来年度の取り組みということですが、今までの方針を継続し、那賀川河口水門や海岸線の防潮堤の整備、避難路や防災資機材の充実など、引き続き地域防災力の強化に取り組めます。また、小さくても輝くオンリーワンを目指した地域づくりを実現するため、依田邸と三聖苑を中心とした新たな拠点づくりに取り組むほか、さくら葉や桑の葉の振興をはじめとした、地域産業や新たな起業への支援を行い、経済の活性化に努めます。

また、棚田やなまこ壁の建物の保存と活用を進めて地域の特色を高め、それに温泉を活かした体験・滞在型の観光を推進することで、賑わいを取り戻したいと考えています。

取り巻く環境は大変厳しい状況ですが、「継続は力なり」と言うように、あきらめずにアクションを起こし続けることが、実現への近道だと思います。

②「齋藤町政7年の中で感じた松崎町の課題と未来に向けての提言はなにか」についてです。

私は町長就任以降、「平成の花とロマンのふる里づくり」を基本理念として町政運営を行ってきました。その期間を通して私が感じた町の課題はいろいろありますが、絞り込んでいくと、「人口減少」という言葉に集約されると思います。人口減少に陥る原因としては、出生数の減少ばかりでなく、若年層の流出などがあり、これらは生活環境や経済状況の変化に加え、観光客の減少で地域経済が衰退したことによる事業所（働く場所）の減少という問題が背景にあります。

この課題を解消するため、私は「全町まるごとふるさと自然体験学校、教師は町民、体験を通して対価を得る」を実現できるよう取り組んできました。

技術や趣味、特技を持った人はもとより、町民一人ひとりが進んでまちづくりに参加し、訪れる方々を迎えることができれば、町の魅力が高まり、訪れる人が増加し、経済が活性化されればそこにビジネスチャンスが生まれ、それが事業所の増加にも繋がっていくと思います。また、就業人口が増えることで人口ピラミッドも是正されることに繋がります。

このような状況を生み出すために、町はエンジンとなって基盤整備や働きかけを積極的に行わなければなりません。また、それを推進する職員のスキルアップも図らなければならないと感じています。

「近き者喜び、遠き者来る」と言うように、住む人が暮らしやすく、訪れる人が増え活力のある町となるよう、住民と職員が一丸となって取り組む体制を作っていかななくてはならないと考えているところでございます。

2. くらし・環境整備について。①「鮎川基盤整備計画の中で災害時用のヘリポート計画が浮上している経緯と今後の利用計画についての考えを伺います」についてです。

鮎川地区の基盤整備を実施した場合、30 パーセント以内の公共用地の取得も可能で、学校や役場若しくは医療関係施設での利用を検討しましたがけれども、事業費等を考慮すると今の時点では不可能なため取り止めた経過があります。

そのまま全体を農地として利用することもできますが、後で用地購入をすることは非効率ですし、耕作をやめたい方がいる現状を踏まえ、大型ヘリコプターが離発着できる規模のヘリポートを建設し、津波等で新港湾が使えなくなった場合の物資受け入れや重傷者の緊急搬送などができる防災拠点の一つにしたいと考えております。

なお、これについては鮎川地区基盤整備推進協議会役員会での承諾も得ておりますが、面積などについては今後、地権者や賀茂農林事務所と協議していくこととなります。

②「町内を流れる那賀川などでは降雨状況によって堤防等に被害が出てきた。土砂堆積物の影響もあると思うが、堆積物除去の考えはないのか」についてです。

昨今、ゲリラ豪雨が日本各地で発生し、河川護岸の決壊による大きな被害がでています。当町においても9月14日の秋雨前線による集中豪雨で、那賀川の南郷橋上流部の右護岸の崩落や、岩科川の中野橋下流部の右岸基礎部分の洗掘などがあり応急処置が実施されたところです。

河川護岸の決壊は非常に大きな被害となりますので、日頃から河川の状況を注視しており、護岸の洗掘箇所等を発見した場合には、土木事務所に連絡し対応していただいておりますが、堆積土砂も河川水位の上昇を招き決壊の原因になりますので引き続き整備をお願いしていく所存です。

3. 旧依田邸の購入計画とNPO伊豆学との連携について。①「伊豆学研究会から旧依田邸の購入打診があったが、当町の方針は決まったのか」についてです。

旧依田邸（大沢温泉ホテル）につきましましては、競売により平成27年9月に伊豆の国市のNPO法人伊豆学研究会と静岡市のNPO法人くらしまち継承機構が共同で落札し、管理運営をし

ておりますが、両団体より、施設の維持管理が困難なため、町に購入してほしい旨の要望があり、これまで議会議員会の勉強会や全員協議会の際にご説明をさせていただいたことは、議員もご承知のことと思います。

町では、旧依田邸が県指定有形文化財にも指定され、依田佐二平翁や依田勉三翁の生家で、北海道帯広市との関係も深い重要な建物であることや国の重点道の駅にもなっている道の駅「花の三聖苑」と連携し、那賀川を含む一帯を文化的な拠点として利活用できることから、現在、所有者と土地・建物などの購入について協議しているところでございます。

以上です。

○5番（藤井 要君） 一問一答でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○5番（藤井 要君） 一問一答に入る前に、町長、このあいだの市町駅伝ご苦労さまでした。

私も行かせてもらったわけですが、その中で旗とかがちょっと松崎町はなかったですね。ですから、この次にいく時は、小旗くらいを用意してもらいたいなと・・・、バスに乗ったのはだいたい27人位でしたからバス1台でも30本位用意すれば目立つと思うんですけど。大した金額じゃないと思いますし、南伊豆が写真入りののぼり旗ですか、あれはなんか1本4000円位だということを聞きましたので、そこまでいなくても小旗くらいは来年作りましょうということでちょっと約束でもしてもらえればありがたいですけども。

○町長（齋藤文彦君） 私も市町対抗駅伝の選手の皆さん方が本当に6月から練習を始めて大会にもっていく姿を見ているので、松崎の代表としてあの人たちが戦うわけですから、松崎町としても本当に全力で応援したいなと思っています。

私も県庁の手前の所で、スタートで議長と2人で応援していたわけですが、カメラ目線に松崎のこういう旗が全然見えなくて非常にさびしいなと・・・、それで、声で応援しなければいかんということでちょっと声が枯れているわけですが、大きな声で応援したわけです。ただ、旗は選手じゃなくて応援・・・、藤井議員さんたちが乗っているところに旗がございまして、いろいろ分散しますので、松崎の旗は静岡のコースのところに分散しているわけで、本当は町のスタートの所にももうちょっと旗を優先的にやって、テレビに映るようにしたいなというようなことがありますので、いろいろ課長会議でぼくの考えを申し上げて、来年はもうちょっと改善して選手の皆さんを町全体で盛り上げていくような感じにしたいなと思って話したところでございます。

○5番（藤井 要君） それでは、最初の質問に入ります。

町長は、今年度というか・・・、この1年最後の任期年になるわけですがけれども、先ほど町長は壇上でいろいろ言いましたけれども、いろいろの10年計画の中とか、総合計画の中で重点実施政策があるわけですがけれども、なんかどれを取ってもなんというか・・・、一極、これをやるんだというようなのが感じられない。総体的にいて、なんかあっちもこっちも全体・・・、町長は、もう1年だと、これは必ずやりたい・・・、そしてね、前にも言いましたけれども、やり残したことがあるとあって・・・、この前の時には言ったんですけれども、そういうことがないために、もう、そんな100パーセントできるわけじゃないですよ。あっちこっち、あっちこっち・・・。これは必ず、今回、この1年、おれはやり遂げたいというのがありますか、この先ほど言った中で。

○町長（齋藤文彦君） 私は松崎町の少子高齢化・・・、松崎町はいま少子高齢化で人口が減少しているわけですがけれども、その一番のやっぱり弱いところは生産年齢15歳から64歳の生産年齢の人がだんだん少なくなっている。そうすると、どうしても税収が落ちるわけで、いま松崎町は31パーセントが自主財源です。それで、やっぱり生産年齢をもうちょっと増やすためにどうしたらいいだろうかといつも私は考えているわけで、そうしたら、やっぱり松崎町にはいろいろな能力を持った人がいっぱいいるわけですから、私は松崎町を全町まるごとふる里自然体験学校として、体験をとおして松崎の町民の方が対価を得るような形にすれば65歳でもずんずん税金を納めるような形になっていくわけで、そのようなことを私は重点的にやってこの町を元気にしたいとやっているところです。

棚田を見たり蔵さんを見たり、また今度松本君が牛原山に自転車のマウンテンバイクのコースを作るといような話もありますし、また、野中君がスタンドアップパドルでいろいろ海から山から桜を見たりしているので、それなりの効果が表れてきたのかなと思っているところです。

○5番（藤井 要君） 経済とかいろいろやるにはそればかりというわけにはいなくて、いろいろな面で観光もそうだし、そういう人口の・・・、働くところ、両輪でどんどん盛り上げていかなければ・・・、それはわかるわけですがね。

私はいつも教育関係、やっぱりこれは観光・・・、いま流動人口34万人位ですか、当時大沢の依田町長が絶頂期の頃は340～350万人、10分の1になりましたよね。これは日本全国下がってきていますからしょうがないわけですがけれども、やっぱり町が元気になるのには、若いお母さん方とか、そういう人たちを元気にしてやる。これはもちろん仕事、職場があればお母さんたちも働いて元気になります。経済効果が出れば、もう1人産もうかなということも考えら

れるわけですよ。

ですから、いろいろの面で複合的にやらなければならないんですけれども、私は、一番・・・、先ほどから言っているように、今年は、町長、教育、松高の 60 パーセント問題だってあるじゃないですか。松高の高校生が松崎町から 60 パーセントしかいっていないと、そういうことを考えると、やっぱり先ほど 4 つも 5 つも出ましたけれども、そういうことを町長、もう少し考えられないですか。

私はいつも子どもたちを産んで、松崎町の人が産んで、そして町全体で育てる。そして、元気になる。

なかなかよそからは企業さんは来ませんよね。もう私が高校生の頃から前の町長が言っていたけれども、最初から私はちょっと無理だなと思っていましたけれど、もう 30 年、40 年経っても来ていません。そういう点を考えて、松高とかそういう高校・・・、それで、町長が今回、生まれた時、小学、中学、高校と入学の時に 3 万円くれるというのをやりましたよね。これもいいことですが、私はもう例えば、ある程度の時から 5000 円だとか、これは金額は別にしてもいろいろの面で、例えば松高生に残ってもらいたいとなると、松高のがに重点的にお金を・・・、例えば東京とか三島とかに行く高校生には入学祝い金を出すけれども、あとの松高にいる人たちをもうちょっと充実してやるとか、そういう考えもあるんですけれども、そういう政策が・・・、町長、できないですかね、今年。

○町長（齋藤文彦君） 国のもととは人、人のもととは教育だと私はずっと言っているわけで、教育に関しては本当に松崎は一生懸命取り組んでいるところでございます。

それで、今は高齢者の問題と子どもたちの子育て問題で今どのくらい予算があるかというのはいま調べているわけで、副町長といろいろ話をしているわけですが、いろいろ藤井議員が言ったことに当てはまるかはわかりませんが、そのようなことに予算を付けていきたいなと思っていますところです。

また、今回、子どもの「まつぎきマイドリーム 2016」の発表会があったわけですが、あの時本当にこれから渡辺議員のことでまた質問に答えることになると思うんですが、あの子どもたちが本当に松崎のことを考えてくれていて、本当に他人事ではなく私事で松崎町で何かできることがないかというような子どもたちの発言があって、非常に私はうれしかったわけですが、これをきっかけに町内のなかにも松崎町をどういうふうにしたらいいだろうかというような子どもたちと・・・、そういう子どもたちと町の中でそういう話し合いができるようになってくれば、松崎町は本当によくなってくるのかなと思っています。

藤井議員の言うことは私も本当にそのとおりだと思っていますので、どのような形ができるかわかりませんが、そのような形で自分も考えていることがありますので、やっていきたいなと思っています。

○5番（藤井 要君） 今から29年度の予算編成というか、いろいろやっていくわけですから、本当に将来のことを考えて、もう総花的じゃなくて、もう集中的にこれをやってというようなことでお金もつぎ込んでもらいたい。そう思っています。

どうしても人口減少というのは一番のネックだと思うんですよ。これはどう考えても人口が少なくなれば収益だって減っていく。交付金だって減るでしょうし、いなくなれば税金だってどんどん、どんどん減る。これは、一番の人口減少というのはネックですけども、本当にみんな職員の方もそれは一生懸命考えていると思うんですよ。

私は、そういう中でいろいろ町長が言っていますけれども、プロジェクト・・・、職員の中で若手とかそういうことで、じゃあ、これに対してどういうふうに考えていくのかということとか、若手に・・・、グループ3人でも4人でもそういう個々に課題を与えて、そして、やらせていく、そんなのも手じゃないかと思っているんですよ。

私の質問をちょっとね、集中というか、これだというようなことが、町長から言われなかったことがちょっと残念だったと私も思っていますけれども、そういうような考えができませんかね、町長。

ですから、職員とか若手そういう方にプロジェクト、課題を与えていろいろやると、そのような考えは・・・。

○企画観光課長（山本 公君） いま藤井議員からいろいろありました。人口減少、高齢化、後継者不足が進んでいく中で、総合戦略も立てていろいろ産業ですとか雇用の創出ですとか、あるいは移住定住の促進ですとか、あるいは子育て支援をしていきたいと思いますということの中で、今までいろんな取り組みをしてまいっております。

松崎高校の魅力化についてもやはり総合戦略の中に取り上げてあって、マイドリームの中にもいろいろありましたけれども、子どもたちに関わっていただいてまちづくりをしていく、担う子どもたちを育てていこうというようなことでこれまでやってきているということをご承知のことかと思います。

職員のプロジェクトに関しましても、ふるさと納税を新たに切り替えた時に、職員でプロジェクトチームを作って、その中で検討して今の形が・・・、まだまだほかと比べると十分ではありませんけれども、そういった今まで2品3品しかなかったものを数多くの品に増やして取り



組んできたという事例もございますので。また全てができるわけではないですけども、ものに応じてそういったプロジェクトも町長の方で「これを考えろ」ということでプロジェクトというものは設けていくんじゃないかなと考えておりますので、既にやっているものもありますので、そういう部分についてはご理解をいただきたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 私はこの議場で何回も言ったこともあると思うんですけども、やっぱり松崎町には本当にたくさんの素晴らしい財産があるけれども、松崎町の一番の財産は松崎町の職員だと言っています。松崎町の職員が本当に元気で働いてくれないことには松崎町は元気になりません。「答えは現場にあるから現場に出ろ」と言っているわけですけども、それで、松崎町の役場に集まる人たちが、松崎町に集まる人は松崎町のために役立つ人が集まっているのが松崎町役場とって、第5次総合計画がスタートする時に5S運動というのをスタートさせたわけで、私も朝ラジオ体操が終わって役場の中を走り回りますけれど、一生懸命やってみて、昔に比べて本当に何と申しますか、副町長もしっかり見ていてくれますので、職員が仕事に対する姿勢というのは変わってきたような気がしています。

藤井議員が言うように、本当はプロジェクトチームを作って、これとこれをやれというのが、本当にやりたいのがいっぱいあるわけですけども、皆さんそれぞれ仕事を持っていて、あまりこっちが圧力をかけるとちょっと心配なことがありますてなかなかできないところがあるわけですけども、本当にやる気のある職員を見つけて、本当にプロジェクトチームを作ってやっていきたいなという考えは私にもあります。

○5番（藤井 要君） なかなかこの具体的ということは出ないかもしれませんが、いま松高の関係も出ましたよね。60パーセントしか松高は行っていないよということで、松高の魅力化ということもいま出ましたけれども、今までの中でもいろいろのこと・・・、松高・・・、先生の充実だとかいろいろということで、松高に行くようにやっていきますというようなことしか出てこなかったけれども、いま松高の魅力化、具体的にどのようなことがあるのか、一つ二つでいいですから、どのようなことを考えているのか、答弁をお願いします。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 松高の魅力化ということで、教育委員会として松高さんといういろいろ接触する機会があるものですから、確かに松高の進学率が低い、いわば存続問題にも関わる問題ですから、松高になぜ行かないかというのをいろいろ西伊豆の局長とかと松高に行く機会がありまして、そういった話し合いでも出ました。そういう教育長たちが入っている会議もあります。そうした松崎高校に対する町民が求めるものは果たして何だろうかと、なぜ来ないのかということになると、やはり現実の問題とすれば、やはり高校を出てから、その先

のことを保護者等は考えると思うんですよね。進学の問題とか、そういった面で下田高校に流れていくという方もいるようですけれど、ただ、それも下田高校に松崎から行くには定期のお金もかかると・・・、お金がかからない松高がそれなりのレベルに上がれば松高に行かせたいよという声も実際問題あるわけですので、そうした中で、今年度、町の広報を見ていただければわかると思いますけれども、松高の記事が何回か出ていると思います。紹介する記事が。それを西伊豆とうちの方が松高さんに提案しまして、意外と松崎高校の中身、内容というのは町民の方は知らないんじゃないかと、そして、松崎高校の実績を紹介したらどうかということで、松崎町と西伊豆町の広報に載せましょうということで提案して、そういったことをさせていただきました。

その中で、学校の進学の状況とか、部活動とか、そういったことで町民に松高の良さを知らせていこうというような提案をさせてもらったということで、それが魅力に繋がるかどうかはわかりませんが、そういった提案をさせていただいているような状況でございます。

○町長（齋藤文彦君） 松崎町は中高一貫教育がスタートする時に、阿部校長によく言われたわけですが、1学年120名を維持しなければ松崎高校はもたないというようなことで、ずっとぼくも注目してやってきたわけですが、今年は99人と、本当に大丈夫かなと思っているわけで。それで、学校の校長先生に会う時に、やっぱり松崎高校の良さをもうちょっと宣伝してくれよと、松崎高校はこういう素晴らしいところがいっぱいあるんだよと、それで、みんなが松崎高校に行くような・・・、町民の・・・、西伊豆町と松崎町、下田市も南伊豆町もそうですけれど、松崎高校に行きたくなるような高校は、こういう高校だよというようなことをやっているということで、いま課長が話したようにいろいろ広報なんかで載せているわけですが、本当に松崎の皆さん方も本当に松崎高校はいい高校だから行こうじゃというような形になればいいなと思っているところでございます。

○5番（藤井 要君） じゃあ、そういうことで、時間がありますので、違う質問に入らせていただきますけれども、やっぱりテーマを決めてしっかりと町長、お願いします。

7年間の今までの課題、やっぱりいろいろのことを言うけれども、町長、今まで7年間で一番・・・、先ほどいろいろありました。人口減少、これはもちろんですが、そういう中で、これがやっぱり一番のおれの7年間の中で課題だったなというのがありましたら、答弁願います。

○町長（齋藤文彦君） やっぱり家庭でもそうでしょうけれども、夫婦相和して本当にあの家庭に行くと心が休まるなというようなまちづくりというのをずっと私はやってきたわけで、それ

にはやっぱりコミュニティというのが充実しなければいけないと思っています。

35 地区あるわけですけども、やっぱりそこを皆さんだんだん人口が少なくなってくると今までやっていたことをやれなくなるというようなことがございまして、今“町長室からこんにちは”でも書いたんですけども、祭りの元気度は町の元気度だと言いましたけれども、あの祭りができなくなるようになったら町は終わりだと思っていますので、コミュニティを強くするような方法を本当に私は考えて、松崎の7大イベントはそれぞれの地区が参加しているわけですけども、そのようなことで地区の皆さん方が協力して一つのことができるような政策をつけていくのが、松崎が一番元気になる方法だと思っています。

そうすると、やっぱりこういう町だったら私も定住してみたいなというような人も増えるのではないかとと思っています。

本当になかなかこれは人間経営じゃないですけど、本当に進む時間は、何といたしますか、時間はかかると思いますけれども、それをがっちりやっていくのが松崎町が元気になる施策だなと思ってやっているところでございます。

○5 番（藤井 要君） いま課題ということで、未来への提言ということで、だいたい町長と同じようなことがあれですよね。町長は町民との体制をアップとか、職員のレベルアップということで、私は、町民と心をつにして、やっぱり未来に向かうと、それが一つのもう松崎の生きる道、未来への提言だと・・・、だいたい同じようなところですので、時間の関係で、ここでもうよさせてもらいますけれどもね。

次に入らせてもらいますけれども、鮎川の整備、これは1.5・・・、30 パーセントですから、1.5 ヘクタールでいいわけですけども、災害用ヘリポートということで、いま構想が上がっていますよね。その前には橋を仮橋から本橋にしてやると・・・、その中には、例えば、あそこに公共施設なんていうんだったら、私も町民の皆さんが納得できるだろうと思っていたんですよ。

そして、ただあそこの農業だけのために本橋でいくんだったら、3億、4億、5億だかからない、あそこの農業のためにそれはほかの町民が納得するだろうかといろいろ思っていたんですよ。

そうしたところが、今度は、先ほども出ましたけれども、そんなにお金がかかけられないよと、そうしたところが、今度は防災ヘリポートみたいな感じが出ましたけれども、あそこを借りるか買うか、何とかしなければならぬですよ。またこれはまだ先の話だと思いますけれども、一応こういう構想が出るのにはやっぱりそれなりの考えがあって、どうするんだというのはあ

と思うんですけれども、例えば、あそこを買うのか、買った場合には、いくらくらいの予算が必要になるのか、そこら辺の考えをお願いします。

○産業建設課長（高木和彦君）　まず、基盤整備を実施する中で町長の答弁にもありましたけれども、後で購入するということは後戻りになりますので、非効率ということで、3割以内で公共用地を用意したいということについてはご理解ください。

その中で、今回基盤整備をやっていく中で、将来なんとなくこういうものを作りたいからその枠だけ取っておくよということは、これは基盤整備の補助事業をやる上で許されませんので、ある程度の計画を立てるということになりました。

今回この話ですと恒久橋をつける時にはいくらかかるとか、その時はどういうものを作らなければならないということがあったものですから、急きょヘリポートという話が出てきたという、そこらについては否めませんけれども、今まで議員の皆様のご質問をいただいていますと、災害の時の仮設住宅の場所がどうですか、松崎新港湾が津波で襲われた時に避難物資はどこから運ぶのかというようないろいろなご意見をいただいている中で、そうやって考えてみますと、津波が届かないところにそういう公共用地があって、そこにヘリコプターが降りることになれば、なんか重大なことがあった時には一番役立てるスペースになるのではないかと考えております。

また、ヘリポートなんかにつきましては、これから基盤整備の計画の中でここにヘリポートをつくりますということはあげていきますけれども、なるべくお金のかからない状態で整備したいということ、それと、大きな災害があった時には2か月～3か月後に道路が復旧すれば、今度はそこでヘリコプターは必要なくなってきますので、その場合は、松崎町の問題として仮設住宅のスペースがないというのを6月の議会であげていますので、その時は仮設住宅用地として活用するのも一つの手かなと考えております。

○5番（藤井 要君）　私の考えですけれども、災害用ヘリポートが本当にあそこに必要なのかということを・・・、私は疑問のわけですよ。災害が起こるのを想定していればあそこにヘリポートを・・・、いいと思うんですよ。

でも、いつ起こるかわからないところに何十年、何百年、わかりません、それは。そこにヘリポートをつけて芝生のようなところでやるのか、それはわかりませんけれども必要なのか。実際に、緊急で起こった時には、私の考えはあさはかかもしれませんが、例えば中川でも鮎川というか、中耕地でもそうですけれども、もし平らであれば、稲が植わっていたって緊急的に降りて、そういうことだってできると思うんですよ。あそこの鮎川は優良農地に今度は

なるわけですね、今からいけば。そうすると、畑にしたりとかハウスができたりとか、そういうのを何十年とかわからないようなもので置いておくのがいいのか。いくらで買うのか、これもわかりませんが、そういうのを考えるべきですし、私は桜田というか梅月園さんというか、松高のところ辺、ちょっとガラガラ土砂のようなものが山になっているところもありますよね。ああいうところを災害・・・、那賀川の土砂なんかを集めて、ああいうところをある程度平らにして借りて、ヘリポートのようなものにしていく方法ができないのか。そんなことも私は考えたりもするんですよ。

ですから、何十年・・・、そういうのを・・・、確かにいいことですけれども、そういう方法だってやっぱり考える必要があると思うんですが、あそこ・・・、私も最近も行きましたけれども、道路がグジュグジュ土地がやっていますので、そういう方法だって考えるべきだと思いますよ。

先ほど言いましたように、緊急時には田んぼの稲をつぶしてでも、それは降りても後で補償・・・、それは反対する人なんかはいないと思いますよ。それが段ちになっているんじゃないというのにはありますけれども、やっぱりそういう点も考えてもらいたいと思います。どうですか、その点は。

○町長（齋藤文彦君） 全員協議会で総務課長が本当に素晴らしい答えをしたわけですが、そのことをちょっと話してみるわけですが、はじめ議員が言ったとおり国土交通省が進めている伊豆縦貫自動車道「河津下田道路」のⅠ・Ⅱ期の工事の工事区間においておおむね180万㎡の発生土砂が見込まれていると、国土交通省は大量に発生する土砂の搬出に対して他事業の有効活用を望んでいるというようなことがありまして、自分たちも国交省の皆さんに本当にお世話になっているから、これをうまく利用できないのかなと思って、松崎町では建設土砂を受け入れて、耕作放棄地の進む南郷鮎川地区の5ヘクタールを埋め立てて優良な畑地を造成していこうという構想を立ち上げました。

この時には皆さんもご存じのとおり地権者も耕作者の皆さんも気運が高まり、組織する基盤整備推進協議会を設立されました。

造成地のほかに公用地も創設して、農業振興に加えて地域の拠点になるようなということで計画を練っていたわけですね。

それで、しかし、計画地には大型車の進入路がなくて発生土砂の運搬には2級河川に仮設橋が必要だということになったわけですが・・・。

（藤井議員「町長、まとめて。時間がなくなるから」と呼ぶ）

○町長（齋藤文彦君） 仮設橋をやると、仮設橋を取ったあとの恒設橋うんぬんになると大変だ

と、そのままだったら恒設橋を押したらしたらどうでしょうということで私も国交省をお願いに行っていたわけです。

そして、はじめの話としては、本当に埋める経費は国でやってくれますよと、農業基盤整備をやる部分はそこに町の一定の負担が生じると、それにプラス橋について当時は2億円位でできるよというような話だったので、それはいいなと・・・、それで農業基盤整備ができて、なおかつ公用地も3割位で取得できるよというような話で進んでいましたので、これだったらいいんじゃないかというようなことで、職員の皆さんに公共用地を使うには何がいいだろうかといろいろ話し合ってもらいました。

それで、いろいろな計画が出てきたわけですがけれども、小中一貫校をやったらどうだろうとか、病院をやったらどうだろうとか、役場が移動したらどうだろうとか、そして、防災ヘリ倉庫はどうだろうかといろいろ話し合いが行われたわけです。

それで、その国から示された・・・、国、県から示された計画表を見ますと・・・。

（藤井議員「町長、時間がなくなるから・・・」と呼ぶ）

○町長（齋藤文彦君） そうやって進んできたわけですね。そうすると、平成36年には工業施設整備着手というような話がありまして、それではとてもじゃないけれども小学校とか中学校とか役場はできないよと・・・、そして、防災倉庫は今の時点では一番適しているのではないかとということで防災倉庫を松崎町としてはやろうと思っているところです。

○5番（藤井 要君） わかりました。経過はわかりましたけれども、またいろいろと時間もあると思うんですよ。計画が1年延びたというようなことも聞いております。

最近では門野地区の方ですか、自衛隊が来て、たぶんヘリポートとかの関係だと思えますけれども、そういうのも視察に来ているというようなこともあります。

ですから、あっちこっち、私はヘリポートはこれからの話になりますけれども、もうちょっと熟慮する必要があると思います。

そして次に、災害が発生しているということで県とも協議しているということですがけれども、課長なのかなと思いますけれども、これは本当に大きな災害が起きてからでは遅いですから、もうちょっとスピードアップもしてやっぱり県にもねじを巻いて、土砂の除去とかそういうのをしっかりとやってくださいよ。やっぱりどんどん、どんどん高くなってきて、葦が茂ってやっぱりこれは観光もそうですけれども、きれいな町にしましょうよ。そのところをちょっとだけ、時間が短い間、答弁があればお願いします。

○産業建設課長（高木和彦君） うちの方は2級河川、決して県の管理だということで放置して

いるわけではありません。定期的に見回りをして、気がついた時には速やかに県に報告するような対応を取っています。

また、浚渫土、本当にこれがあると災害の原因になりますので、これから土木ともいろいろ連絡を密にして、要望を伝えていきたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君） 藤井君、時間を延長しますか。

○5番（藤井 要君） してください。

○議長（稲葉昭宏君） 時間を延長いたします。

○5番（藤井 要君） いろいろな話の中で、いま鮎川をやり替えるということですが、私が思っているのは、5年、10年後、本当に今、例えば峰輪の方の中川農協の反対・・・、中川農協と言ったらおかしいですけども、JAの反対側なんかは、いま耕作している田んぼがあります。10年後に今のままであるのかとか、それだったら土砂とかそういう浚渫したものを埋めてもらって、そして畑にした方が10年後、20年後、ハウスも・・・、使い勝手があるんじゃないか、そんなようなこともありますので、またそういうことも考えて町長、やってくださいよ、そういうことも。本当に心配になります。耕作地が・・・、荒らすことのないように・・・。

それで、最後になりますけれども大沢温泉の関係になります。これはいろいろの勉強会の中でも話し合い、説明も受けております。最近では、温泉もということで、合せてということで、話を伺っているわけですが、相手の方も買ってくれということだけでも、相手の人たち、いま持っている方が2人いるわけですが、金額的にまだ折り合いがついていないようなことを伺っています。

町としては、反対にいくらなら買いますよとかという提案ができないんですかね。

町長、どうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 相手が持っているわけですから、今それで交渉しているところです。交渉が決まりましたら、議員の皆さんにちゃんと報告したいなと思います。

○企画観光課長（山本 公君） このあいだの全員協議会並びにその前の議員勉強会の際に先方が提示しているもの、こちらが考えられる金額ということをお示しさせていただいた中で、交渉させていただきたいということでご了解をいただいていますので、その範囲の中でということで交渉をいま進めている。議会終了後もまた相談させていただくということでございます。

○5番（藤井 要君） じゃあ、今でもやっているよということですよ。そして、じゃあ、温泉もやっぱり買うということになるということで、これは長引けば長引くほど温泉を持っている人だって、毎月あれは6万円近くの電気料がかかると聞いておりますよね。

だから、そういうことを考えると早く解決しないと・・・、その方は松崎のためになるであろうということで買ってあげたと思うんですよ。そして、最終的には松崎が買って譲るということだと思いますけれども、やっぱりそういう人の負担だってあると思うんですよ。早く買ってあげないとということもありますので、早いところ折り合いをつけてもらいたい。

それで、あそこでいろいろ管理してくれている方もいますよね。そうした時に、私たちもいろいろなイベントになるべく参加して、それで盛り上げていきたいということで協力しているわけですよ。

そうした中で、やっぱりあそこに行った時に塀が崩れていたりとか、上を見ると軒下が崩れているとか、いろいろあるわけですよ。あれだって早く修理しなければいけないと思うんですよ。

私は、まつぎき荘じゃないですけども、ある程度、例えば最終的には買う方向ですけども、買わなくなった時にでも町の財産として、例えば年間の枠の中で 100 万円・・・、これは数字はあれですけども、100 万円なら 100 万円この修理に充ててくださいよとか、そういう補助みたいなものがないのか。

松崎町が買ってしまえばいいわけですけども、ある程度の時間が経過する時に、劣化してしまうとか崩落もしていく。そういうのを止めるためにもそんなような考えもできないのか、ちょっと町長の方の答弁をお願いしたいと思いますけれども。

○町長（齋藤文彦君） 本当に持っている人も大変でしょうから、早く合意に達するようにいま交渉を進めているところでございます。なるだけ年度内に話がつければいいなといま進めているところでございます。

それで、依田邸についてはいろいろあるわけですけども、やっぱり今は他人のものですから、町がああだこうだと言うわけにはいかないわけですけども。27 年度繰越の地方創生加速化交付金の採択を受けて、美の漆喰文化を育むまちづくり事業というので町内の 10 棟余りのなまこ壁の建造物実態調査やなまこ壁の建造物の活用計画を策定の中で、現状調査や利活用についていま進めているところでございます。

○5 番（藤井 要君） 時間もないわけですので有効活用ということで、これは極端かもしれませんが、例えばそこに修理させても・・・、例えば何か月後に買えば自分ちが修理したようなものですよね、これね。そういうことだってあると思いますし、一体となった・・・、町長はあそこを観光の起爆剤、核にしたいということを言っているわけですので、前にも言いましたけれども、やっぱり町民が、ある程度金額は示されない・・・、あそこでいくら儲けてとか、



いくら収益が上がって、それをいくらかけるということは数字的にはなかなか表に出てこないでしょうけれども、やっぱり青写真としてあそこを三聖苑から導線をつけて、そしてお客さんをあそこに引っ張っていくんですよとか、まつぎ荘を宿泊拠点として、そして例えば共通のクーポンをやって地域の活性化とか、経済の底上げを図るとか、そういうのを考えていると思うんですよ、私は。ただ買いたい、買いたいじゃあ、これは町民が納得しないわけですので、役場の職員はそこらは考えていると思うんですけどね。そういう、いま考えているわかる範囲でいいですので、どういうふうにしたいのか、少し青写真的なものがあれば、お願いしたいと思いますけれども。

○企画観光課長（山本 公君） 交渉については急いで交渉するというか、合意に至るように努力をするということでございます。

それから、町長も述べましたが、建物がどういう状況かについては加速化交付金を使ってその建物の状況を調べると。それが今後の修理とか、そういう部分に繋がっていくんだろなと、その費用を算定するのに活用できるだろうなと。

あと、活用については、前回の時にもお示ししましたが、資料館的な部分あるいは入浴の関係の部分、あるいは若干体験ができたりとか、テナントとして入ってもらう部分というようなことも考えはありますけれども、それらについても具体的に取得後に具体的なものはより考えていく形になるかと考えておりますけれども、現時点では、こういう形の中で使い方が考えられるということで、今お話をさせてもらいました。

○議長（稲葉昭宏君） 藤井君、まとめてください。

○5番（藤井 要君） 課長の方で取得後に考えると言っていますけれども、やっぱり町民に訴えるのは取得後じゃないですよ。こういうふうにやりたいから買うんだと、そういう方向性をやっぱり示すべきだと思いますよ。町ではこういう運営をしたい、だから、買うんだ。それで、町の経済活性化のための観光の核にして、町を盛り上げていくんだと、そういうような強い信念を持って町民のためにやってもらいたいなと思います。

これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で藤井要君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午前10時25分）

---